



実践編





社会科

1. 小学校社会科における指導事例

- (1) 第3学年 「市の様子の移り変わり」
- (2) 第4学年 「自然災害から人々を守る活動」
- (3) 第6学年 「わたしたちの願いと政治の働き」

2. 中学校社会科における指導事例

- (1) 公民的分野 「国民の生活と政府の役割」
《コラム》実践紹介「生徒が身近な社会問題を解決し，財政及び租税の役割に気付く」
- (2) 公民的分野 「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」
- (3) 公民的分野 「民主政治と政治参加」
《コラム》実践紹介「外部機関とつながる」「ICT 機器を有効に使う」



1. 小学校社会科における指導事例

第3学年「市の様子の移り変わり」

1. 単元の目標

区の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、区や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にこれからの市の発展について考えようとする態度を養う。

2. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などについて博物館や資料館などの関係者や地域の人などへの聞き取り調査をしたり地図などの資料などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、区や人々の生活の様子を理解している。 ② 調べたことを年表や文などにまとめ、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。	① 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などに着目して、問いを見いだし、区や人々の生活の様子について考え表現している。 ② 区の様子の変化と人々の生活の変化を結び付けて、区や人々の生活の様子の変化を考えたり、これからの市の発展について考えたりして、適切に表現している。	① 区の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に、これからの区の発展について考えようとしている。

3. 単元における「主権者教育の充実」に向けた指導のポイント

(1) 自分の生活との関わりをイメージさせる資料を活用すること

単元全体を通じて、区が公共施設の整備を進めてきたことを写真や公共施設の分布が分かる資料を活用するほか、第5、6、7時において、昔から地域に住んでいる方から小学生時代の体験談を聞き、資料として活用することにより、社会で起きている事柄に興味・関心をもたせようとしている。

(2) 区役所職員に提案を価値付けしてもらうこと

第14、15時において、学習したことを基にこれからの区の発展について子供たちが提案する際、区役所職員に授業に参加してもらい、児童の考えた提案を価値付けてもらうことにより、社会で起きている事柄に実感をもって思考を働かせるようにしている。

(3) 地域の未来の姿を具体的に考えること

区の人口推移グラフ、外国人の人口推移グラフを扱いながら、区の課題を具体的に捉える。また、学習したことを基に「これからの区の発展」について対話をする機会を設けることで、児童は様々な人の立場から多角的に区の発展を捉える。これらにより、社会の形成に参画する基礎を培うようにしている。

4. 指導計画 (全 15 時間)

学習過程	○主な学習活動 ・児童の反応	◇指導上の留意点 ■資料 ☆評価【観点】(評価方法)
課題把握	<p>① 問い：今と昔では、区や人々の様子にどのような違いがあるのだろうか。</p> <p>○写真資料から文京区の移り変わりを読み取る。 ・昔は着物を着ている人がいるが、今は洋服を着ている。 ・昔は路面電車が走っていた。 ・今は高い建物が多し。昔と比べて人は増えているのではないか。</p>	<p>◇時期によって区の様子が違うことに気付くことができるよう、3つの時代区分、3地点の写真資料を用意する。 ■明治(B区)・昭和(A区ができたころ)・令和(現在の様子)写真 ☆交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して問いを見いだしている。 (発言・ノート)【思①】</p>
	<p>② 問い：A区は、どのように移り変わってきたのだろう。</p> <p>○学習問題の解決に向けて予想し、学習の見通しをもつ。 ・服装や使っていた道具もかなり変わってきたのではないか。 ・昔は路面電車だけど、今は地下鉄もある。どのように変わってきたのか。</p>	<p>◇1学期に行った内容(1)「区のように」で学習した現在の様子を想起させながら予想から見通しに学習を進める。 ■前時で使用した資料 ☆区の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもつ。 (発言・ノート)【態①】</p>
	<p>③ 問い：A区の人口は、どのように変わってきたのだろう。</p> <p>○人口の増減と時期に着目しながら調べる。 ・1945年のところが、ものすごく減っている。戦争があったのか。 ・区は、人口が増えたり減ったりしている。 ・昭和は、一気に増えた。</p>	<p>◇導入で示した3枚の写真と区の人口グラフを関連付けながら、人口の増減の時期と区の様子の移り変わりを関連付けられるようにする。 ■区の人口グラフ ☆区の人口グラフから、時期により区の人口増減の違いがあることを理解する。 (発言・ノート)【知①】</p>
課題追究	<p>④⑤ 問い：交通の様子はどのように変わってきたのだろう。</p> <p>○交通の移り変わりを調べる。 ・明治時代は、馬がバスのようなものを引いているよ。人がたくさん乗っているから、今の電車やバスか。 ・人力車は、今のタクシーみたいなものかな。 ・昭和時代の道路は、歩行者用道路がとても狭くて危ない。</p>	<p>◇交通が整備される前や後の区の様子、今現在の区の様子について調べられるように資料を提示する。 ■明治の馬車の絵、昭和の路面電車停留所地図、現在の鉄道地図 ■明治の土の道路、昭和の高速道路ができたころ、現在の道路写真 ■地域の方の話 ☆資料を基に、時期による交通の違いを理解している。 (発言・ノート)【知①】</p>
	<p>⑥ 問い：土地の使い方とはどのように変わってきたのだろう。</p> <p>○土地利用の移り変わりを調べる。 ・昔は低い建物が多かった。今は2階建て以上が多い。 ・地下鉄ができて、人が利用する場所が変わると、お店も人が集まるところが多くなるのではない。</p>	<p>■明治の牧場写真や畑のグラフ、昭和の1階建て商店が並ぶ写真、現在の地図 ■地域の方の話 ◇区の土地利用の変化の資料と地域の方の話を関連付けて提示することで変化を具体的に捉えられるようにする。 ☆資料を基に、時期による土地利用の違いや人々の生活の様子を理解している。 (ノート・発言)【知①】</p>

学習問題 A区は、どのように移り変わってきたのだろうか。

学習過程	○主な学習活動 ・児童の反応	◇指導上の留意点 ■資料 ☆評価【観点】(評価方法)
課題追究	<p>⑦ 問い：区役所や図書館などの公共施設はどのように変わってきたのだろうか。</p> <p>○公共施設の数や位置の変化から移り変わりを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治時代は区役所が2つある。 ・図書館のある場所が固まっていて、図書館が遠い人もいる。 ・昭和時代は増えてきて、どこからでも近い場所に図書館がある。 ・公共施設は区が作っている。そこには、税金が使われている。 	<p>◇公共施設建設には税金が使われていることに触れる。</p> <p>◇内容(1)で取り上げた公共施設と関連させて考えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「区の様子」で使った公共施設地図 ■3つの時代区分による公共施設分布図 ■地域の人の話 ■区役所職員の話 <p>☆資料を基に、時期による公共施設の違いや区役所の働きについて理解している。</p> <p>(ノート・発言)【知①】</p>
	<p>⑧⑨ 問い：昔のくらしや道具はどのように変わってきたのだろうか。</p> <p>○人々のくらしや道具の移り変わりを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治時代は、水道やガスがないから、水をくみに行ったり火をおこしたりしている。 ・だんだん自分のやりたいことができる時間が増えているのではないか。 	<p>◇調べる道具の内容が広がり過ぎないように、生活が分かるイラストを示し、身近な道具に着目できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■時代区分ごとの生活が分かるイラスト <p>☆資料を基に、時期によるくらしや道具の違いを理解している。</p> <p>(発言・ノート)【知①】</p>
	<p>⑩⑪ 問い：A区の交通や土地の使われ方、人々の生活などはどのように移り変わってきたのだろうか。</p> <p>○調べてきたことを年表にまとめ、A区がどのように変わってきたのかを捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■年表拡大図 ■これまでの資料 ■これまでまとめてきたノート <p>☆学習したことを基に、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解する。</p> <p>(ノート)【知②】</p>
課題解決	<p>⑫⑬ 問い：A区の未来は、どのようになっていくのだろうか。</p> <p>○これからのA区の人口推移グラフを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2034年から大人と子供が減っていて、高齢者が増えている。 ・2039年からは、全体の人口が減っている。 ・2024年は、高齢者と子供の数は、同じくらいだったのに、2064年の高齢者の数は、子供の数の3倍になっている。 <p>○外国人の数のグラフを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年～2018年まで、外国人の数は増え続けている。これからも増えていくと思う。 <p>○A区の未来について考える。</p>	<p>◇グラフを読み取る際、年号と児童の年齢を照らし合わせながら捉えていくことで、自分も未来を作っていく一員であると考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■A区総合戦略 人口推移グラフ・外国人の数グラフ <p>☆地域の少子高齢化、国際化などについての課題を把握し、これからの区の実現について考えたり議論したりして、適切に表現している。</p> <p>(発言・ノート)【思②】</p>
	<p>⑭⑮ 問い：A区の未来の姿は、どうなっていくとよいのだろうか。</p> <p>○「3年3組A区ミライ対話」を開き、自分の考えた未来の区について提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段やスロープにし、高齢者が住みやすいA区にしたい。 ・ふれあいの場をつくる。 ・子供を増やすようにしたい。そのためには、安心して子供を産み、育てられる社会を実現させる。 <p>○話し合ったことから自分の意見をまとめる。</p>	<p>◇実際に行われている「ミライ対話」を「3年3組A区ミライ対話」として設定し、社会参画を模倣的に体験できるようにする。</p> <p>◇区役所職員に児童の提案を価値付けていただくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■前時の資料 <p>☆区役所が作成している資料などを基に、これからの区の実現について考えようとしている。</p> <p>(発言・ノート)【態②】</p>

5. 授業の実際

第7時 公共施設の移り変わりを調べる。

(1) 本時の展開



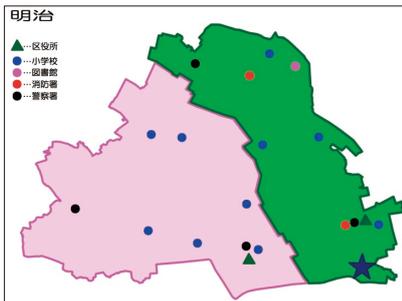
公共施設は、どのようなものでしたか。

図書館・公園・区役所・警察署・消防署…
だれもが使える場所、税金でできているもの

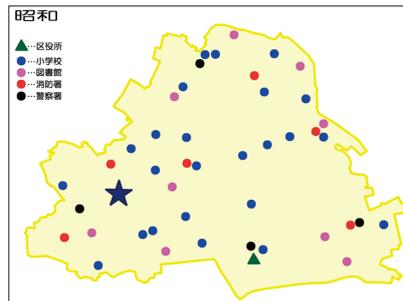
【問い】 公共施設はどのように変わってきたのだろう。

【予想】

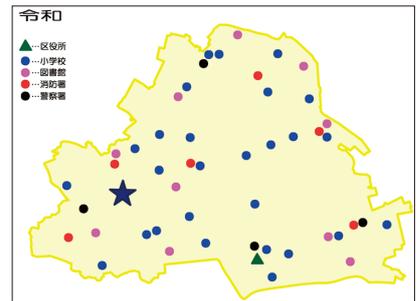
- 明治時代は人口が少なかったから、使う人も少ない。だから公共施設も少なかったのではないか。
- 公共施設も明治、昭和、令和とどんどん増えていったのではないか。



【明治時代】



【昭和時代】



【令和時代】

明治、昭和時代の公共施設分布図を提示し、3枚の分布図を比べた。令和時代と昭和時代は、あまり変化がないことに気付いた児童は、明治時代と昭和時代になぜこんなに公共施設が増えたのか、明治時代は、公共施設が少なかったから、どうしていたのかという疑問をもった。第2時で使用した人口グラフを見て、人口の増加と関連付けて人口が増えたからだとする児童も出てきた。そこで、自分たちの予想を確かめるために、区役所職員の話の資料を読み取って、公共施設の移り変わりについて確かめた。

区役所職員の話

A区には学校をはじめ図書館や公園など公共施設がたくさんあります。昭和のはじめのころ少なかったのですが、人口が増えてきて必要になりました。A区に住んでいる皆さんがよりよく生活できるように、まちの皆さんと区役所が話し合い、税金を使って作っています。



○さんの話

昭和時代より前は、図書館が近くになくて、少し先のB図書館まで行っていたと聞いたことがあります。でも息子のときは、近くに図書館ができたり、公園が増えたりして使いやすくなりました。(息子さん) 近くに図書館や公園があったので、よく遊びに行っていました。特に、C図書館やD公園は、よく利用しました。



(2) 本時の振り返りの段階における児童の反応と考察

児童のノート記述	考察
○明治から平成まで30カ所も公共施設が増えて、住みやすくなっている。明治時代は、図書館がB区にあって、C区の人がわざわざ行かなくてはならないから大変だけど、公共施設が増えて便利に住めるようになったと思った。	公共施設分布図から数の変化を読み取り、地域の人の話から公共施設の建設と生活の変化を捉えることができている。また、人々のくらしも豊かになっていったことも捉えられている。
○今日、公共施設のことを調べて、今は、どこに住んでも近いところに、学校や図書館などがあるけれど、明治時代は、少なかった。住んでいる人のことを思って、区が公共施設を増やしたことが分かった。	人々がよりよい生活ができるように、公共施設が増えたことを捉えることができている。区が公共施設の建設に関わっていることを捉えている。

(3) 本時の考察

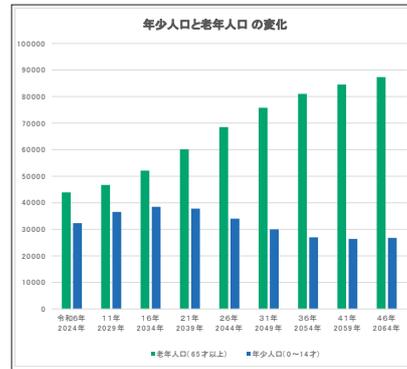
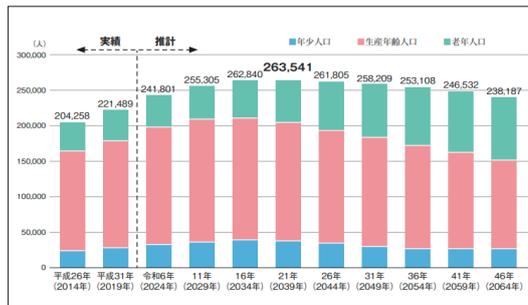
公共施設の分布の資料と区役所職員の話や地域の方の話を提示することで、児童は区役所の働きや税のこと、また公共施設が人々の生活を豊かにしていること等に気付くことができた。

第12・13時 A区の未来について、グラフを基に考える。

(1) 本時の展開 (導入)

【問い】 A区の未来は、どのようになっていくのだろう。

【資料提示】 A区人口推移グラフ



【読み取り】

- 2039年から人口が減り始めて、高齢者がどんどん増えていきます。
- 2024年は、高齢者と子供の数は、同じくらいだったのに、2064年の高齢者の数は、子供の数の3倍になっています。子供の数もどんどん減っていきます。

【資料提示】 A区に住む外国人の数



【読み取り】

- A区に住む外国人の数も毎年増えています。
- 4年間で2,800人増えています。
- 毎年700人くらい増えているから2021年には12,000人くらいになっているのではないかな。
- これからも増え続けていくのかもしれない。
- A区の未来は、たくさんの外国人が住んでいると思います。

導入で区の人口推移や外国人の数のグラフを提示したことで、児童は区の未来を考えるためには、高齢化、少子化、国際化などに触れていくことが大切であることを捉えていった。さらに、これから高齢化、少子化、国際化が進むことが予想されている中で、区の未来について児童から不安や心配の声があがってきたところで、A区総合戦略を提示し、区が未来を考えて取り組んでいくことを読み取る活動を行った。

(2) 本時の振り返りの段階における児童の反応と考察

児童のノート記述	考察
○ A区は、区がこれからも安全・きれいでいられるように、意識していることが分かった。でも、このままだと人口が減ってしまうから、税金も入ってこなくなる。区役所の仕事ができなくなるのかな。	これまでの学習を基に、税金の役割と関連させて考えることができている。税金が減ると公共施設建設など区役所の働きに影響すると考えている。
○ A区はよりよい暮らしを一生懸命考えていると改めて思いました。私は、これからもA区に住み続けたいです。外国の人もこれからますます増えると思うので外国の言葉を話せるようにして、たくさん話したいです。また、外国人とともに住むA区にしたいです。	グラフから今後の外国人の数を予想し、これから自分にできることを考えようとしている。また、未来の区の姿を外国人とともに暮らすまち、と考えていることが分かる。

(3) 本時の考察

これまでの学習で税金について触れたことから、区の発展を考える際に税金を関連付ける児童がいた。グラフから未来を考えたことで、高齢化、少子化、国際化を考える必要があることを捉えることができた。

第14・15時 「3年3組A区ミライ対話」を通して、未来の区の姿について議論する。

(1) 本時の展開

【問い】 A区の未来は、どのようになっていくとよいのだろう。

【予想】

- 未来は、お年寄りが増えるから、お年寄りのことを考えた区になるといいと思う。
- 土地の使われた方で自然が減ってきているので、自然を大切にしたい区がいいのではないかな。



今日は、区役所のTさんにも来ていただきましたので、Tさんにも入っていただいて、実際にA区で行われているミライ対話を3年3組でもやってみましょう。

〈3年3組A区ミライ対話〉

未来の区
高い者がすみやすい区
①かいだんをスロープにする
②老人ホームを増やす
理由
・人口が増えるから高齢者が
・少子化で高齢者が多くなるから
・高齢者が住みやすい区に
・高齢者が住みやすい区にするため



私は、高齢者が住みやすいA区を提案します。グラフを見ると、高齢者が増えていく予測だから、階段をスロープにしたり、老人ホームを増やしたりして、高齢者が今より住みやすいA区にするといいと思います。



それはいいですね。

私は、Bーぐるのバス路線を増やせると、坂が多いところも、高齢者が移動しやすくなると思います。これも高齢者が住みやすいA区につながると思います。

ふれあいの場などの
しせつ・会場をつくる。
ふれあいの場
ふれあいの場



私は今ここでやっている「ミライ対話」のような区の未来に向けてどうということをするか話をする施設を作れば、また新しい案が生まれてA区がよくなるから、税金を使って施設を増やしていくということを提案します。みんなが区の未来について話し合える場、ふれあいの場のような施設をつくってみんなの案を区の実行に生かしていくことが大切です。



話し合いの広場をつくるということ？



そうです。みんなで自由に区の未来について話し合う広場のような施設をつくることです。



話し合う場をたくさんつくるということは、意見がたくさん出てくるのはいいと思うのですが、それを実際に決めたりするのが難しいのではないですか。



案をいくつも出して、意見を言って、いい案を5個くらい選んで、A区のどこか、区民課とかに提案すると思います。

子どもをふやす!
子どもをふやさないといふ未来がなくな
ってしまふので子どもをふやしたいなど
思った。そのためには大人をふやさないとい
ふことができないので外国から来てもらって
大人をふやして子どもをふやしたいなど
には安心して子供を育てられる社会を
つくる。



私は、子供を増やすことを提案します。外国からも人に来てもらって、まずは大人を増やしていく。そのためには、安心して子供を産めて、育てられる社会にしないとけないと思う。A区が今以上に、安心して子供が産める区、安心して育てられる区になっていくといいと思います。そういう取組をしていくといいと思います。

点字ブロックのある歩道を広くしてほしいと思います。

目の不自由の人など“ろう”がい人などが通りにくいと思うからです。



公園だけでなく道沿や色々などに花や植物をふやしてほしいと思います。

もと 区に自然のある場所がふえたり季節を感じられるからです。

私は、障害のある人にも優しいまちがいいと思います。まちにある点字ブロックのある歩道を広くすることを提案します。学校の帰り道にもありますが、今のままだと通りにくいところがあるからです。



グラフを見て、人口が減ってくることが分かりました。人口が減ると、税金が減るので区はたいへんです。

そこで、私は、税金とかお金を使わずに、住んでいる人たちで掃除習慣を作って、1日1つゴミを拾って、ゴミを捨てないようにして、それをずっと続けていけばきれいになると思います。

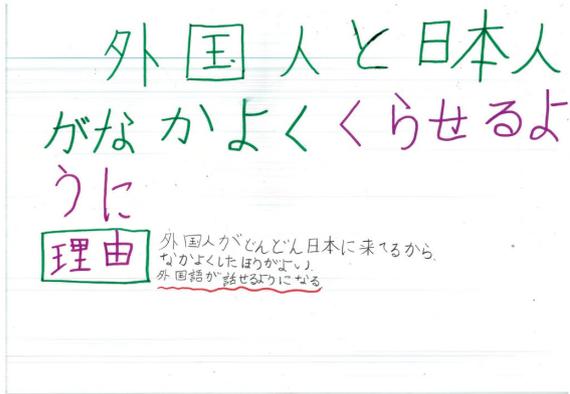


どうしてこの提案にしたの？



税金が減ると、いろいろな取組ができなくなってしまうと思うので、それなら、自分たちでできることを考えて、提案してみました。

1人では大変ですが、みんなでやればたいへんではないので。1日1人1個ゴミを拾えばまちはずいぶん変わると思います。そうすれば、まちはきれいになるし、お金も使わない。みんなでできることをやって、これからもきれいなA区になってほしいです。



私は、外国人と日本人がなかよく暮らせるようにすることを提案します。



どうしてそう思ったのですか？



外国人がどんどん日本に来て、A区に住んでいるとグラフで分かったからです。ミライももっと増えていくと思ったからです。



これからのA区は、外国人にとっても便利で住みやすいまちにする必要がありますね。例えば、外国人が読める看板や案内板、外国語のパフレットなど。今もあるけど、もっと増やして住みよいA区になるといいですね。



それなら、私たちも外国語が話せるようになると、話ができ、日本のことも伝えられますね。これなら私たちにもできそう。外国語を覚えて外国語が話せるようになりたいです。

区役所の T さんの話

みなさんの提案にあった「話し合う場をつくる」ということです。A 区の人口は 22 万人くらいですが、大人から子供までたくさんの方が住んでいて、みんなの意見を全部集めることはできないことはないけれど、とても大変なことです。ですから、話し合う場をつくり、そこで案を出し合って、いくつかの提案を区にだすのはいい案かもしれない。ただ、「話し合う場をつくる」には、みんなのお金の税金を使うということになります。税金の使い方について区で考えていかないとはいけません。すぐにできるか、本当に必要か、考えていくことも大切です。



それから、さっきどこから始めるの?とだれかが質問していたけれど、提案から自分たちにできることを 1 つでもやってみてほしいと思います。例えば、「ゴミを拾う」という提案があったように、ガードレールにゴミが詰まっていることに気が付いたら、捨ててみる、それを見ていた大人が捨てなくなるかもしれない、子供が道路をきれいにしていたら、ゴミを捨てられなくなると思います。自分たちにできることから始めてみるのが大切です。自分の行動がだれかのためになると考えてほしいと思います。

(2) 本時の振り返りの段階における児童の反応と考察

児童のノート記述	考 察
<ul style="list-style-type: none"> ○みんなの意見を聞いて、掃除なら私もできると思った。できることから始めたい。 ○今日みんなの話を聞いて、自然だけではなく、ゴミも減らさなきゃいけないということを知りました。私もゴミのことは考えていなかったもので、やってみたいと思いました。 ○今日はみんなの意見や T さんの話を聞いて、自分が考えたことは自分で実行してみようと思いました。今の私たちにもできることがあることが分かりました。 	<p>区の環境保護に関する取組を知ったことで、環境に関する意識が高まり、提案につなげて考えていた。また、区役所の T さんの話から、今の自分たちにもできることを考えることができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の提案が私の住んでいる A 区に伝わって、今よりいい区にしたいと思いました。他の区でもそれはできると思うので、他の区でもどんどん進めて、私の住む F 県に限らず日本までよくなるといいと思います。 	<p>自分が住む区をよりよくするために提案して伝えることが大切であることを捉えている。さらに、それは自分の住む区だけではなく、他の区でも、県でもできることを捉えている。自分の区をよくするために自分も関わるといふ社会参画の芽が育ち始めていると考えられる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで未来がどうなるのかを考えることが大切なのかなと思った。未来に子供が減るといふのは嫌だけど、そういう中でも、区を取組などを読んで考えると、どういうふうになれば未来が豊かになるのか自分たちにもできることを考えられてよかった。 	<p>未来に向けて区が行っている実際の取組について知ること、自分たちができることを考えることにつながっている。また、未来の区のためには、みんなで意見を交換しながらみんなで考えていくことが大切であることを捉えている。</p>

(3) 本時の考察

よりよい未来の区の姿を提案し対話することで、自分だけではなく、様々な立場の人のことを考えていくことの大切さを学ぶこともできた。また、それを実際に行政職員に、価値付けたり話をしてもらったりすることで、今回の提案を提案で終わらせないために、まずは自分ができることから取り組むことが大切であること、今の自分たちにも未来のよりよい区の姿につなげるためにできることがあることなどに気付いた。このことが自分もよりよい区をつくっていくその地域の一員であるとの意識につながった。

なお、区が実際に行っている市民参加型の取組「ミライ対話」を模擬的に体験することができた。

6. 実践するに当たっての留意点・配慮事項等

(1) 教材の選定

- ・時代の移り変わりを捉えやすくすることが重要だが、どの時期を取り上げるのかは、地域によって市が大きく変化する時期は異なるため、事前に調査の上、選定することが望ましい。その場合、人口に限らず、土地利用や交通、公共施設などに着目することが大切である。
- ・授業で使う資料の入手に当たっては、市役所や教育委員会などと連携して資料を集めたり、授業に関わってもらったりするなどの工夫が必要である。また、地域に昔から住んでいる人、地域の歴史に詳しい人など、地域人材を効果的に活用することが大切である。

7. 資料・ワークシート等

○第7時 文京区史

<https://www.lib.city.bunkyo.tokyo.jp/kushi.html>

○第14・15時 「文の京」総合戦略, 「人口の推移グラフ」, 「区を取り組み」

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/kusejoho/kekaku/kousou/fuminomiyako-sogo-strategy.html>